

インフォグラフィック

学校におけるAI — 導入とリスクのバランス

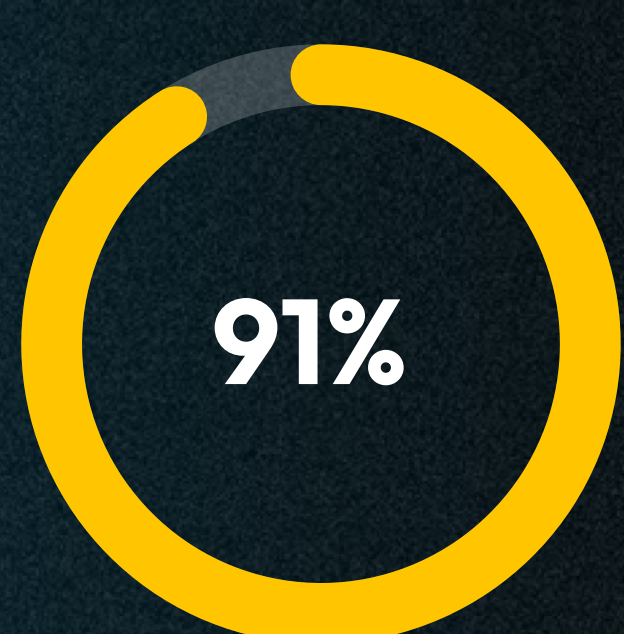


人工知能 (AI) は教育分野を急速に変革していますが、導入の加速に伴いサイバーセキュリティ上の課題も拡大しています。こうした状況を把握するため、Keeper Securityは独立系調査機関に委託し、米国と英国の初等・中等・高等教育の教育リーダー1400人以上を対象に調査を実施しました。本調査では、AI導入の現状、安全策、AIを悪用した脅威への備えを分析しています

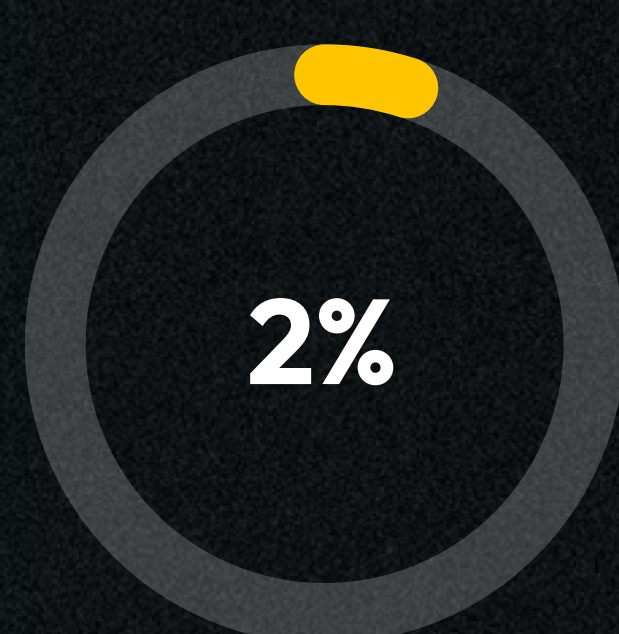
教室に広がるAI



生徒にAIの利用を許可している学校



教職員にAIの利用を許可している学校



AIを全面禁止している学校

AIの脅威が拡大中

41%

AI関連のサイバー被害 (フィッシング・誤情報・有害コンテンツ) を報告した学校

30%

「生徒による有害なAIコンテンツ作成」を報告 (同級生のディープフェイクなど) した学校

認識と自信のギャップ

90%

AIの脅威に懸念を示した教育関係者

25%

ディープフェイクやAI型フィッシングを見抜くことに「非常に自信がある」教育関係者



教職員の主な懸念



ディープフェイクによるなりすまし

65%

学生のプライバシー侵害

53%

学習の支障

方針と安全策の遅れ



53%

暗黙の理解に依存



34%

AI関連のセキュリティに専用予算を計上



37%

正式なインシデント対応計画が存在



AIは教育を大きく変革していますが、明確な方針やガバナンス、堅牢なセキュリティ基盤がなければ、混乱を引き起こすリスクがあります。学校は今すぐ行動し、AIを悪用した脅威から教職員と生徒を守る必要があります。方針面での未整備を解消し、研修によって教職員と生徒のリテラシーを高めることが重要です。また、学校がレジリエンスを強化することも不可欠です。多要素認証 (MFA) やゼロトラスト・ゼロ知識の特権アクセス管理 (PAM) ソリューションなどの強力なセキュリティ対策を導入することで、継続的な本人確認を実現し、機密データを保護できます



ダレン・グッチョーネ

Keeper Security CEO兼共同創業者